

# おおくま

福島県大熊町  
議会だより

2021

令和3年  
8月1日発行

No.58

題字：泉 順子さん(熊)



ICTを活用した授業に全集中(熊町・大野小学校)

6月  
定例会

子育て世帯へ特別給付金 ..... ②

復興への課題をとらえて 町政一般質問 ④

県外最終処分に向けた検討が始まる ..... ⑥

サークル紹介 おおくまパークゴルフ協会 ⑧



スマートフォン  
でも見られます

## 定例会のあらまし

令和3年第2回定例会は6月9日から11日までの3日間で開催されました。

第1日目に町長より専決処分、条例制定および一部改正、工事請負契約、備品購入契約、財産の取得、固定資産評価員の選任、農業委員会委員の任命、一般会計補正予算および特別会計補正予算など31議案が提案されました。

第2日目は2人が一般質問を行い「ゼロカーボンに適合したエコ住宅建設に補助金を」、「新型コロナウイルス検査体制構築について」などを取り上げ町政をただしました。

最終日の本会議では初日に提案された31議案を審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ15人でした。



町内で順調に進むワクチン接種

# 新型コロナウイルス影響長期化 子育て世帯へ特別給付金

## 一般会計

## 子育て世帯 生活支援特別給付金

### 8250万円

新型コロナウイルス感染症対策が長期化する中、子育て世帯を支援するため、生活支援特別給付金が支給されます。

## 対象者

①令和3年4月分の児童手当の支給を受けている児童

②18歳までの高校生

給付額  
児童生徒1人当たり一律5万円

## 一般会計

## 新型コロナウイルス 対応等業務委託

### 2075万円

ワクチン接種の予約を迅速に受け付けるためコールセンターの回線を増設します。

接種率向上のため丁寧に対応します。

## 工事請負契約

## いちご栽培施設太陽光 発電システム設置工事

### 1億7369万円

ゼロカーボンビジョン事業推進のため、いちご栽培施設に太陽光発電と蓄電システムを設置します。

自給自足の電力システムを構築し、町内の再生可能エネルギー率の向上を目指します。

## 財産取得

## 西工業団地取得

### 2430万円

西工業団地の整備を進めるため計画地に隣接する民有地を取得します。高圧電力と工業用水が利用可能であり、SDGs型工業団地を目指します。

団地内に原風景を活かした公園を整備することで、町民の憩いの場としても期待されます。

※万円未満四捨五入

# 成人式出席者へ 新型コロナウイルス抗原検査を実施



成人式が予定される町内の交流施設(イメージ図)

**問** 令和3年第2回定例会にて補正予算の審議を行いました。その中から主な質疑内容を報告します。

### 成人式新型コロナウイルス抗原検査

**問** 秋に開催予定の成人式で出席者は事前に抗原検査を実施することですが、どのような方法で検査をするのか。

**答** 出席案内通知に唾液抗原検査キットを同封し前日の夜または当日朝に検査を行い、その結果をスマートフォンで撮影し受け付けに提示する仕組みである。

### 子育て世帯生活支援特別給付金

**問** 給付金が支給される条件は。

**答** 令和3年4月分の児童手当、特別児童扶養手当の支給を受けている児童生徒である。

令和3年度分住民税均等割が非課税の世帯に一人当たり5万円を申請不要で支給する。

なお令和3年4月から4年2月末まで生まれた子どもは申請が必要になる。

### 坂下ダム調査委託

**問** 調査はどのような設備の設置を目的に行うのか。

**答** ゼロカーボン事業推進のため坂下ダムを活用した少水力発電、および湖面等を利用した太陽光発電の導入が可能かを調査する。

### 固定資産評価員 一島和広氏を選任

全会一致で同意しました。

【住所】大熊町大字熊  
【任期】令和3年7月8日〜

### 農業委員会委員12名に同意。

【同意された委員(敬称略)】

	氏名 (地区名)		氏名 (地区名)
1	吉田 和也 (野上)	7	堀川 健 (下野上)
2	藤森 幸喜 (下野上)	8	尾内 八ツ子 (夫沢)
3	田中 利忠 (熊川)	9	根本 友子 (小入野)
4	畑川 恵成 (熊町)	10	吉田 幸治 (下野上)
5	石田 定孝 (野上)	11	大和田 宣夫 (小良浜)
6	佐久間 住夫 (熊)	12	前田 克浩 (下野上)

**お詫び** おおくま議会だより第57号の6ページ表中、令和4年度および令和5年度の固定資産税の負担割合は、今後、条例の制定等により変更される場合があります。お詫びの上補正させていただきます。



阿部 光國 議員

## 町政を問う 復興への課題をとらえて

### 問 太陽光発電システムの設置を

調整池活用

### 答 産業エリア側は設置を検討する

**阿部** 下野上地区復興拠点区域内の梨畑は産業エリアと住宅エリアが計画されており、そのエリア内には2カ所の調整池の設置が予定されている。その上部を有効活用すべきと考える。

産業エリア側の調整池上部には太陽光発電システムを設置し住宅エリア側の調整池上部には住民の憩いの場としてテニスコートなどを設置すべきと考えるが町長の見解を問う。

**町長** 産業エリア側の調整池には太陽光発電システムの設置を検討している。

住宅側の調整池の上部をテニスコートなどの憩いの場として整備する点については池の上部に人工的な地盤を整備することは、面積が1畝以上あるため管理面や整備費用の点から困難である。

一方で当該調整池は常時水が溜まっているものではないので、池の底面の高さを段々に

することにより河川敷のような利用を検討する。調整池の底面利用については様々な利用が考えられるが、雨の際に調整池としての機能を果たすことが第一である。

管理の点で問題がないかも踏まえて整備の可能性を検討する。

### 問 エコ住宅建設に補助金を

### 答 町独自の補助制度を検討

**阿部** 町では将来的に原発事故があった町ではなく、先進的ゼロカーボンタウンとして私たちの子どもや孫たちが誇りを持って語れるまちづくりを進めるとしている。

令和4年春には特定復興再生拠点の区域が解除され、その区域内にはこれから帰町する

町民や新規移住者が住宅の新築や改修などをして生活が始まると予想される。

そこでゼロカーボンに適合した住環境整備を進めるために、町内に建設されるエコ住宅に以下の支援策をすべしと考える。

- ・ 冷暖房などのエネルギー消費を抑えることができる住宅の建築に対する補助金
- ・ 太陽光発電システム設置への補助金

- ・ 蓄電池システム設置への補助金
- ・ 電気自動車充給電設備設置への補助金

このような支援策は他自治体でも実施しているが、町民の帰還や移住促進のために町ではより手厚い支援策を実施すべきと考えるが町長の見解を問う。

**町長** 町のゼロカーボン政策の基本理念と必要な手続き事項等を条例で定めるとともに、全国の先進事例の仕組みを参考とし、必要経費を手厚く支援できる町独自の補助制度の準備を進める。

また、今回の補助制度では町民、新規移住者のみならず町内に立地する企業や事業者も支援の対象にしたいと考えている。

西山 英壽 議員



## 問 簡易検査体制を構築すべき

新型コロナ

## 答 ワクチン接種に全力を挙げていく

**西山** 新型コロナウイルスの感染拡大により町内でも感染者が確認された。町は今まで以上に町民の生命を守る対策を強化すべきである。最優先はワクチン接種の早期終了だが、全員の2回接種終了には時間を要する。

そこで町のワクチン接種終了までの感染防止策として、県外居住町民に検査費用を助成、県内居住町民にPCR検査、抗原検査キットを本庁および各出張所に配備し、緊急で検査が必要な町民が簡易検査を受けられる体制を構築してはどうか。

早期対応により感染を抑制し、今後町民から感染者が出ないよう万全の態勢を整えるべきと思うが町長の考えを伺う。

**町長** PCR検査、抗原検査の実施は、感染を拡大させないために有効な手段と考える。役場本庁舎や各出張所でも検査を受けられる体制整備があれば、さらに体制強化となると考えるが、感染症の検査業務は保健所の業務であり、町では専門職もおらず検査する事ができない。

検査費用の助成については、今まで自費にて検査を受検していた経過等もあり改めての制度設計は公平感を欠くと考える。

町としては感染拡大防止に努め、県や避難先自治体と協力しワクチン接種に全力を挙げていく。

**西山** 町は幼保小中一貫の新教育施設の建設に向け進んでいる。

そこで子育て世帯が帰還を検討しやすくなること、また新規移住を検討している子育て世帯の判断材料の一つとして、町内に居住し町外の高等学校に通学する高校生を対象として、在学中の通学定期費等を補助する制度を新設整備してはどうか。

補助制度新設による教育支援により、町内から通学する子育て世帯の経済的負担の軽減が図られれば帰還促進新規移住にも繋がると思うが、町長の考えを伺う。

### 通学費補助

## 問 町内から通学する高校生に支援を

## 答 補助を実施していきたい

**町長** 新教育施設の実施設計を着実に進めているが、開校時の児童生徒数は少人数が予想され、その後子どもたちの人数の想定が困難である。

まさに通学費補助制度は、その教育支援により子どもたちの進路選択の幅を広げるとともに、町内から通学する子育て世帯への経済的負担の軽減が図られる。また町民帰還および住民移住の契機の一助となることが期待できる。今後町は、子育て世帯の目線で安心して居住できる環境を整えるため、町内から通学する高校生に対し、通学費補助を実施していきたい。



町内から高校へ通学しやすくなります

# 県外最終処分に向けた検討が始まる

4月26日、全員協議会にて環境省、原子力災害現地対策本部より説明がありました。説明要旨と主な質疑内容について報告します。

## 中間貯蔵施設

県内に仮置きされている除去土壌は帰還困難区域のものを除くと本年度末までにおおむね搬入を完了します。

施設整備の進捗、除去土壌などの発生状況

に応じて必要な用地取得を行うことにしています。今後も地権者に対し丁寧な説明を尽くします。

また減容処理など技術のさらなる開発や検証を行い、県外最終処分に向けた検討を進めていきます。

## 主な質疑の内容

**問** 2045年の県外最終処分に向け、年次ごとに達成する目標

をきめ細かに示すべきでは。

**答** 中長期ロードマップを分かりやすくということは十分認識しており検討したい。

**問** 用地取得は状況に応じてということだが、当初必要とされた用地はすべて購入するのか。

**答** 土地が余るのであると思う方もいるが、予定した1600畝すべて必要である。

## ALPS処理水

福島第一原発の廃炉を進めていくには使用済み燃料やデブリを保管する施設が必要で、処理水を処分しなければ敷地が限界

に達します。タンクの風評と老朽化や大きな地震への災害リスクなどの指摘もあり、4月13日にALPS処理水の海洋放出方針を決定させていただいた。

自治体、農林水産業者などと数百回に及ぶ意見交換、様々な関係団体からも意見を聞かせていただき、これらを総合的に判断して決定しました。

風評被害を最大限抑制するために、トリチウムの濃度について6万ベクレルが海洋放出の規制基準ですがその40分の1、1500ベクレル未満になるよう希釈します。モニタリングは放出後も後も徹底し、第三者の目を入れることによって透明性を高めていくことにしています。

処理水の安全性について、引き続き科学的根拠に基づく情報を分かりやすく発信してまいります。

## 主な質疑の内容

**問** トリチウムだけではなく、他の放射性物質を含む処理水は大丈夫なのか。

**答** ALPSで浄化し放出前に基準を満たす。東京電力だけでなく第三者機関でもこの水をしっかり検査する。

## インキュベーション施設

起業を目指す人材の育成、支援する施設として大野小南校舎と図書室を活用します。町の新たな産業づくりや雇用創出がねらいです。

事務室をはじめエレベーター、屋外階段の設置、電気、衛生、空調防災設備などを整備します。また体育館も補修し倉庫として活用します。

北校舎については環境省で解体することになっており、併せて机などの備品を処分します。

## 主な質疑の内容

**問** 施設に入居を希望する人たちの募集はいつごろになるのか。

**答** 今年の秋あたりに募集要綱を示し、来年春の開所を目指す。

5月24日、全員協議会にて企画調整課よりインキュベーション施設の説明がありました。説明要旨と主な質疑内容について報告します。

# 文化財収蔵庫の整備を 早急に検討すべき



文化財の行き先は

5月19日委員会を開催し、所管事務および現地調査を行いました。主な内容をお知らせします。

## 現地調査

大野小学校体育館に保管されている文化財等の調査と、民俗伝承館の現況を確認しました。

図書館の天井が一部崩落しているがその他大きな損傷は確認されませんでした。

委員からは、大野小

学校体育館はインキュベーション施設として利用も計画されているため、関係課と綿密に協議すること。

また、文化財収蔵庫の整備についても早急に検討すべきとの意見がありました。

# 生活循環バスの 利便性を向上すべき

5月20日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。主な内容をお知らせします。

## 生活循環バス

生活循環バスの運行状況について調査を行いました。

利用者が少ないこと

もあり今年度はバスの本数を削減しました。

また、現状は他の公共交通機関（JR・路線バス）の運行時間とズレもあり買い物や通院時のバス待機時間が極端に短いことも把握できました。これらの課題を踏まえ利便性向上のため路線変更も検討していきます。

委員からは、現状をよく分析し、利用率が低い場合は震災前の「あいまちタクシー」のような手法も検討してみてもどうかとの意見がありました。

## 大川原町営住宅

大川原地区町営住宅の入居状況について調査を行いました。

災害公営住宅の不適

正な利用については、居住確認調査を行い不在であった11世帯に対し、電話で状況を確認したところ4世帯は居住を確認できました。

引き続き巡回等を実施し不適正な利用が確定した世帯は退去をお願いしていきます。

委員からは、今後も住宅の不適正な利用がないかしっかり調査していくべきとの意見がありました。

# 気軽に参加しませんか！

## 初心者大歓迎



毎回和気あいあいと楽しんでいます

おおくまパークゴルフ協会は、震災以降も愛好者団体として活動しております。

当協会の会員は浜通り、中通り、会津方部を含め約90名が在籍しています。主な活動は年数回の講習会や競技大会、中通り、会津方部の合同交流会を実施しています。

また浜通り方部では週2回の練習日を設け、毎回約40名が参加し元気に活動しています。

当協会はパークゴルフを通じて、以下の点を目標としています。

- ①子どもから高齢者まで三世代にわたって誰もが気軽に楽しむ。
- ②適度な運動で心身の健康や脳の活性化を図る。さらに、健康を維持することで今後の医療費削減に貢献する。
- ③パークゴルフを通し町民が集まることで絆を深める。

今までパークゴルフに興味がなかった方、ひきこもりがちな方まずは気軽に参加しませんか。



ベストスコアを目指して

おおくまパークゴルフ協会  
会長 富田 英市

### 編集後記

メジャーリーグの大谷翔平選手の活躍が光輝く今シーズンです。  
先日久しぶりに長男とキャッチボールでふれあいました。

16歳の長男が投げた球は、とても速く真つ直ぐで、そして重い球でした。

キャッチした私の手のひらの痛みは、長男が真つ直ぐ未来へ着実に歩んでいる10年間の成長の重みと痛感しました。

力強く育ってくれている長男を、いつも以上に、とても誇らしく、とても愛おしく思い、目頭が熱くなりました。

この子達の本当の帰る場所、そして未来を守らなければと改めて思いました。ちなみに、手のひらの痛みは数日取れませんでした。

(西山 英壽)

### 広報公聴常任委員会

発行責任者	委員	副委員長
吉岡健太郎	廣嶋公治	阿部光國
西山英壽	島原健二	石井和弘
渡辺照彦	佐藤誠	